

都立庭園 旧芝離宮恩賜公園

旧芝離宮恩賜庭園 国指定 名勝 大江戸線大門

<https://www.tokyo-park.or.jp/teien/contents/index029.html>

小石川後樂園と共に、東京に残る江戸初期の大名庭園の一つです。小田原藩主、大久保忠朝により造営され、明治期には離宮として宮内庁の所有となりました。回遊式泉水庭園の特徴をよくあらわした庭園で、大泉水を中心とした地割りや、石組の配置が非常に優れています。

開園時間	午前 9 時～午後 5 時（入園は午後 4 時 30 分まで）
休園日	年末・年始(12 月 29 日～翌年 1 月 1 日まで)
入園料	一般 150 円 65 歳以上 70 円 (小学生以下及び都内在住・在学の中学生は無料)
交通	JR 山手線・京浜東北線「浜松町」下車北口 徒歩 1 分 都営地下鉄大江戸線「大門」(E20)下車 徒歩 3 分 都営地下鉄浅草線「大門」(A09)下車 徒歩 3 分 ゆりかもめ「竹芝」下車 徒歩 10 分 TEL 03-3434-4029 旧芝離宮恩賜庭園サービスセンター 〒105-0022 東京都港区海岸 1-4-1
開園年月日	大正 13 年 4 月 20 日
開園面積	庭園 42,035.40 平方メートル 開放公園 1,139.96 平方メートル（平成 27 年 7 月 1 日現在）

小石川後樂園と共に、今東京に残る江戸初期の大名庭園の一つです。回遊式泉水庭園の特徴をよくあらわした庭園で、池を中心とした庭園の区画や石の配置は、非常に優れています。

明暦（1655～1658 年）の頃に海面を埋め立てた土地を、延宝 6 年（1678 年）に老中・大久保忠朝が 4 代将軍家綱から拝領しました。

忠朝は屋敷を建てるにあたり、藩地の小田原から庭師を呼び庭園を造ったと言われています。庭園は「楽壽園」と呼ばれていました。

庭園は、幾人かの所有者を経たのち、幕末頃は紀州徳川家の芝御屋敷となりました。明治 4 年には有栖川宮家の所有となり、同 8 年に宮内省が買上げ、翌 9 年に芝離宮となりました。離宮は、大正 12 年の関東大震災の際に建物や樹木に大変な被害を受けました。

翌年の大正 13 年 1 月には、皇太子（昭和天皇）のご成婚記念として東京市に下賜され、園地の復旧と整備を施し、同年 4 月に一般公開しました。また、昭和 54 年 6 月には、文化財保護法による国の「名勝」に指定されました。

回遊式泉水庭園

<夕日に輝く泉水>



泉水は、この庭園の要を成す施設です。池は海水を引き入れた「潮入りの池」でした。引き潮の時は中島から浮島に渡れたり、潮の干満により州浜や島々の風景が劇的に変化したといわれています。今は残念ながら海水の取り入れができなくなり、淡水の池になっています。

勇壮な石組

旧芝離宮恩賜庭園には、数々の名石が用いられた庭造りが行われています。根府川山や中島の石組は一見の価値があります。特に大久保家の藩地であった小田原 から、多くの根府川石が運ばれ、いくつかの石組と泉水周りの飛石に使われています。泉水の護岸は富士の黒朴石が用いられています。

西湖の堤

<西湖は江戸の人達の垂涎の場所でした>

西湖は、中国の杭州（現在の浙江省）にある湖、西湖堤は風光明媚な西湖の蘇堤を模した石造りの堤です。古来、詩歌や絵画の題材として珍重されました。

勇壮な石組－（その1）蓬萊山

中国で仙人が住むと言われる「蓬萊山」を表した中島の石組です。

鯛橋・根府川山・飛石（根府川石）

<小田原から運んだと思われる石郡>

鯛形の根府川石の橋を渡ると右手に豪壮で圧倒されるような築山があります。その山麓に根府川石の飛石が端正な形に敷かれています。

勇壮な石組－（その2）枯滝

山溪を流れ落ちる滝を彷彿とさせる石組です。



部外秘